

# きょういく・さど

平成19年10月10日  
第3号  
佐渡市教育委員会学校教育課

## ？立ち止まって今を考える

佐渡総合教育センター  
所長 臼杵 國男

中教審は、学習指導要領の改訂作業の中で、小・中共「ゆとり教育」を部分修正して「総合的な学習の時間」を減らし、授業時間数を全体で1割程度増やす方向を示した。かつて学校週五日制により授業時数確保を理由に教育活動が見直されて、学校行事等が厳選され結果として研究会や研修会も縮小された。今、学校現場では、学校評価、教員評価制度等、評価項目を数値化により評価する企業経営的手法が導入されている。学校の目標設定との整合性を図るために学級経営案にも反映され、目標達成の観点からはシステム化されるが、教育を数値のみで評価することに若干の疑問を感じる。現場が、数値目標の計画作成、評価のための調査のサイクルで多忙感を作り出し、教育全体が画一化してきているように感ずる。教育には、数値で表しにくい部分がある。そのことに教育的価値の高いこともあり、多忙感の中で見落としていたとしたら、学校の中に児童と教師の人間関係による教育が薄れていくような危惧を感じる。目標設定による数値評価の手法を否定するものではないが、学校の教育活動や教育風土に本当に合っているのかと問いたい。

学校には、その学校が長年に亘って児童と教師によって創り出されたその学校固有の風土や特色ある教育活動があった。子どもたちは、その雰囲気や環境の中で学校生活を送ることにより感化され、意識が育って主体的に自己を高めようとする学校文化が存在していたように思う。研究校で教師は鍛えられ、校内で優れた先輩や指導者との出会いの中で影響を受け、学校全体の力が個々の教師の力量向上に重要な役割を果たしていた。学校が教師を鍛える文化をもち、学校全体で子どもの教育に取り組むという学校文化があったように思う。果たして今、このような学校文化が存在しているだろうか。数値に追われ、学校が担う本来の「教育」という高い価値が薄れているように感ずるのは、私だけだろうか？

不登校児童・生徒への対応をお願いします

下越教育事務所  
指導主事 原 功治

佐渡市内における、平成19年度1学期間について、30日以上欠席児童・生徒数の調査集計が行われました。それによると、小学校9人(昨年同期5人)、中学校26人(同22人)でした。小・中学校いずれも、昨年度に比べ増加しています。また、学校規模の大小にかかわらず発生しています。

### 【19年度1学期末での30日以上欠席者数】

学年	小学校						中学校		
	1	2	3	4	5	6	1	2	3
人数	0	0	0	2	5	2	4	10	12

特に小学校5年生に増加の傾向が強く表れています。この学年は、昨年同期(小4 1学期末)には0人でしたが、今年は5人の該当者がいます。一方、中1ギャップが心配される中学1年生は、1学期末で4人(昨年度小6時、1学期末で3人)でした。小学校から中学校への接続が良好である所が多いと見ることができます。中1ギャップ解消に向けての各学校の取組の成果が出ているものと感謝いたします。しかし、過去のデータからも中1で不登校生徒が増加するのは2学期です。心が不安定になりがちな生徒への支援をお願いします。

各学校が「生活アンケート」で児童・生徒の意識を調査し、学校運営に配慮している様子を学校訪問で伺うことができました。また、「心の健康チェック」等を毎月行い、児童・生徒のストレス状況を把握し、きめ細かな相談体制をとっている学校もありました。

「中1ギャップ解消に向けて」- 中1ギャップ解消プログラムは、小・中の連携と接続を特に意識して作成されています。掲載されている資料は活用の仕方によっては、不登校・いじめの早期発見に有効なものが多くあります。不登校児童・生徒への対応と新たな不登校児童・生徒を出さないためにも、「攻めの生徒指導」への参考となります。各学校の実態に応じた対応をお願いします。

## 体力向上

下越教育事務所

指導主事 浜田 尚

スポーツの秋、9月末には小学校親善陸上競技大会、佐渡地区中学校駅伝競技大会が行われました。両競技大会とも、佐渡市の小中学校の大多数の児童生徒が、この大会に向けて熱心な練習を積み参加していることは、体力向上に十分寄与しているものといえます。

さて、佐渡市管内の第1回中学校区訪問における学校評価項目の「体力向上」部門の教育活動の取組とその割合をご紹介します。

<学校評価項目体力向上における教育活動>

めあて学習や運動量の確保等の体育の時間の授業改善	約 20%
体育の時間の授業に体力向上プログラム等を取り入れ実施する	55%
休み時間（業間）や放課後に体力向上の取組を実施する	15%
部活動を核にした取組	6%
課外活動や体育的行事等にかかわらせた取組	4%

H19.7現在小・中学校：%は重複した取組も含む  
・全体の半数強の学校で、体育の時間の授業に体力向上プログラムを取り入れたり、体力テストで劣っている種目を重点的に取り上げたりして向上させています。

・約半数の中学校で、部活動を核にした取組が行われています。各中学校における各種部活動と駅伝や陸上大会等とを関連させて全校が運動に取り組む体制を活性化しているようです。

・体育の時間の授業改善が、やや率的に低いように感じます。授業を充実させ、運動に親しむ資質や能力を育て体力向上を図る取組にも力を入れて欲しいものです。

おわりに、今年度は佐渡市において義務教育課主催の「公立小・中学校体育主任会」と「子どもの体力低下・運動嫌い防止のため～」の2回の伝達講習会が実施され、多数の教職員が参加しました。すでに、各校では、校内研修等で、講習の内容について伝達されているとは思いますが、その際に配布された資料の活用が望まれます。講習内容以外の最新の指導法等が満載されていますので、ぜひ共有し協働してください。



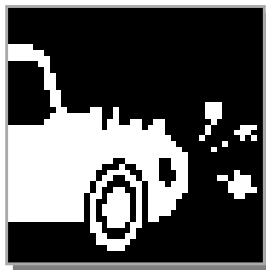
## 速度超過、交通事故に注意を

管理主事 高野 榮

7月末から9月末までに報告のあった佐渡市内の学校職員の事故報告は、速度超過2件、交通事故（被害&加害）5件でした。二学期に入って、車同士の物損事故が増えています。ご注意ください。

二学期は、いろいろな学校行事が行われます。日頃気ぜわしい先生方も、より一層気ぜわしく感じ、心のゆとりを失いがちです。ゆとりを持って運転するように、早めの出立準備や交通渋滞があっても会議や研修に間に合うような出立時刻の設定等に努めてください。

日没時刻が早くなってきました。薄暗くなったら早めにライトを点灯したり、クラクションを活用する等危険回避の工夫や走行速度のチェックで交通事故防止に努めてくださるようお願いいたします。



## トピックス



### いじめ根絶スクール集会

囑託指導主事 本間 恵次

県教育委員会では本年度の最重点事業として、県民総ぐるみの「いじめ根絶県民運動」を展開しています。

その運動の一環として8月7日に「いじめ根絶スクール集会」がトキのむら元気館で開かれました。島内全小・中・高校と特別支援学校の児童生徒や教職員、保護者ら約240名が出席し、パネルディスカッションや寸劇を通して、いじめをなくするにはどうしたらよいか真剣に考え、意見交換をしました。

パネル討議での発表は、友達の輪を広げる異学年交流、全校でやる仲良し集会、スマイルミーティング活動、人権強調週間の設定など、参加各校の今後の取組に大いに参考となる示唆に富む内容でした。

今後、10月のいじめ根絶強調月間を中心に、児童生徒自らの手による創意工夫ある活動が活発に展開されますようお願いいたします。

